

定例市長記者会見録

日 時：7月24日(月) 午後1時30分～1時55分

場 所：本庁舎6階 特別会議室

出席者：一宮市 中野市長、福井副市長

報道機関 中日新聞、読売新聞、中部経済新聞、共同通信社

本日の案件は3つです。

1番目は『BISHU FES.』の開催概要（一宮市コンテンツ）です。

11月11日(土)・12日(日)に開催予定の「BISHU FES.」について、中心市街地やi-ビル3階シビックテラス、オリナス一宮、本町商店街など、駅前の銀座通りから真清田神社の空間を使って、幅広く尾州の魅力を発信できる企画を練っています。

一つ目が「出張手芸部 in 尾州」で、編み物や縫い物といった手芸をより多くの人たちに体験してもらうイベントを、2日間オリナス一宮で開催します。2つ目のイベントが「NINOW-TEXTILE PROGRESS IN JAPAN- 尾州版」で、NINOWは「になう(担う)」と読みます。尾州産地で働く若者に光を当てて、そうした若者たちの映像を会場で上映し、彼らが作った生地・商品を展示販売します。12日(日)は若手の皆さんのトークイベントも予定しています。3つ目が「BISHU FES. 一宮市観光協会 presents」です。i-ビル3階シビックテラスでのブース出店企画で、尾張の武将・織田信長や豊臣秀吉が茶道を嗜み、茶道には和菓子が欠かせないことから、尾張国・尾州にたくさんあるレベルの高い和菓子をPRします。また、テイクアウトモーニングのPRや、尾州製品・尾州 Assembly のブースを出店します。4つ目「BISHU FES. marche」は飲食や展示即売会のほか体験ブースもあります。幅広く芸術やクラフト・手作り製品・飲食・音楽ライブステージなどいろいろな形で賑やかになればと期待をしています。

東京ガールズコレクションの「BISHU COLLECTION produced by TGC」はファッションのプロに作り込んでいただきますが、「BISHU FES.」は、地元の市民や企業団体の皆さんのご協力をいただきながら、いろいろなものを作り上げていきます。この地域の魅力を発信できればと期待しています。

2番目は「庁内コンビニ交付端末の運用を開始します」についてです。

マイナンバーカードについては、一宮市は保有率が7割超、申請率が8割超で、保有率では全国平均や愛知県平均よりも高い状況となっています。せっかく取得していただいたので便利さを実感していただこうと、コンビニエンスストアに設置されている交付端末を8月1日から市役所本庁舎1階・市民課の窓口付近にも設置します。案内職員が案件内容に応じて交付端末に誘導することで、窓口の混雑も減らせますし、また、体験してもらうことで、利用促進になるのではと期待しています。

この端末では、証明書類や住民票の写しなどが交付できますが、コロナ禍前は年間交付件

数が全体で30万件ほどあり、コンビニ交付の割合が令和2年度で8%、令和4年度で19.8%でした。令和5年度はまだ年度途中ですが約7万8千枚の証明証交付件数のうち約2万3千件がコンビニ交付で、3割を超えるという状況です。便利さを実感してもらえれば、わざわざ市役所に来る必要もなくなり、市役所窓口の混雑も減ります。いらっしゃった方には、使い方をお伝えし、機械でできることは機械に任せていければと思っています。

手数料については、令和5年度中は割引率を拡大し200円割引になっています。窓口交付で300円の場合、コンビニ交付では100円になりますので、ぜひご利用いただければと思います。

現在、マイナンバーカードの紐付けに関して、いろいろなミスやエラーが発生していることもあり、マイナンバーカードに対する不信や不安が高まっていることを私どもも実感しています。そこで、ご紹介しなければいけないのが自主返納件数についてです。マイナンバーカードはもう必要ない、使わないと言って自主的に返す市民の方が4月は1件、5月が7件と少し増えた程度でしたが、6月は1ヶ月間で30件と跳ね上がりました。ちなみに7月は、21日時点で16件あり、少し減る見込みです。

返納するとご自身でマイナンバーカードの情報確認もできなくなり、不便になるので、市としてはできるだけ安心して使っていただける環境を整えることが第一と考えています。そのために、一宮市は総点検本部を設置します。今は厚生労働省やこども家庭庁・総務省などから届いた通知は、市のそれぞれの担当部署に縦割りに降りてきています。これは官公庁の世の常ではありますが、一宮市ではしっかり対応していこうということで、各担当部署にばらばらに届いたマイナンバーに関する情報を、今後は総務部のデジタル推進室で取りまとめしていくというものです。デジタル社会に向けてみんなで取り組んでいく中で、少しでも市としてできることをやっていきます。

3番目は「道路・公園の損傷通報システムの運用を開始します！」についてです。

こちらは類似のものを岐阜市さんや稲沢市さんが実施していますが、今は一宮市内で道路や公園の損傷を見つけた方から電話やメールでの通報や、窓口にお越しいただく形で対応しています。スマホなどで写真を送ってもらうと状況が非常に分かりやすいので、8月1日から、道路については“みちレポ138”、公園については“パークレポ138”という通報フォームをネット上で開設します。このフォームから通報していただければ、市職員も損傷の状況や雰囲気をつかみやすいので、効率的に、正確に事態に対応できるのではないかと期待をしています。

以上、本日の説明でございます。

■『BISHU FES.』の開催概要（一宮市コンテンツ）について

（記者）尾州の和菓子とテイクアウトモーニングのブース出店では、販売も行いますか？

（市長）はい。その場で販売します。

(記者) 尾州の和菓子で代表的なものは何ですか？

(市長) 例えば、わらび餅やまんじゅうなどたくさんあります。

■ 庁内コンビニ交付端末の運用を開始します。

(記者) 一宮市ではマイナンバーを違う人に付けたことがありましたが、別人の情報がマイナンバーに紐づいたというケースはありますか？

(市長) マイナンバーカードの機能本体に関わるミスやエラーは把握していません。税・介護保険・予防接種などの市のシステムは、住民基本台帳ネットワークシステムと同期させていますので、ミスが起きることは考えにくいです。他市に住民登録があるまま市内に住んでいる学生さんや単身赴任の方など、ごく限られたケースでミスが起きやすいという傾向が見えてきていますので、そこを事前に集中的に調べるようデジタル推進室から各部署に呼び掛けています。市は基幹システムを住民基本台帳システムと連動させておけばまずミスは起こりませんが、健康保険組合や都道府県などの住民基本台帳を持っていないところは、どうしても手作業でのヒューマンエラーが一定割合出てきます。それをどう防いで、できるだけ早期に市民の皆さまに安心してもらい、徐々にデジタル社会に慣れてもらえるかというのが今勝負どころではないでしょうか。

(記者) 自主返納の件数が増えている原因や理由はありますか？

(市長) 窓口でマイナンバーカードの返納理由を聞いています。必要ない、使わない、不安だといったお答えがあり、中には、恐怖を感じる、制度に賛同できないというお答えの方もいらっしゃいました。

(記者) マイナンバーカードの保持は任意ですか？

(市長) はい。カードの保持自体が今は任意なので、その制度の枠組みの中で市でもできることをできる限りやっているという状況です。

本来はデジタルに限らず、いろいろな道具やツールは、便利だから使うというふうに広がっていくのが自然体だと思います。例えば、これは便利だと思うのは、運転免許更新時のオンライン講習の導入です。実証実験として、千葉県がマイナンバーカードの電子証明書を使って免許更新時の講習がオンラインで受講できるようになるそうです。こういうことができれば、マイナンバーカードを便利だから持っていようとか、取ろう、使おうと思ってもらえると思います。市民の皆さんに少しでも便利さを実感していただいて、安心安全に利用していただきたいと思い努力していますが、一宮市の約 38 万人の中で、6 月の 1 ヶ月間で 30 の方がもういらないと返されたというのが現状です。

(記者) 今回の総点検本部の設置は、不安な声もあることを踏まえ、安心してもらうための趣旨ですか？

(市長) そうです。我々としては、もしミスやエラーがあればいち早く見つけたいと考えています。各省ごとに市の担当部署に縦に降りてくる通知をデジタル推進室で取りま

とめ、いろいろな視点から危ない箇所を見極め、コツやポイントが分かったものを庁内で共有して、早い段階で先手を打って動こうということで対策を練っています。

■その他

(記者) 車いすテニスの小田凱人選手がウィンブルドンで優勝され、世界大会の連覇を達成されました。そこで、まさにトップオブトップの選手が一宮市出身というところを政策立案に活かすといったアイデアはありますか？

例えば、車椅子にやさしい街をつくろうとなったときに小田選手の意見があれば説得力が増すと思っていて、「応援しています」とか横断幕の掲示だけでなく、他にその優位性を活かすことができないかと思っています。そのような市長の考えがあれば、お聞かせください。

(市長) 私も全く同じ考えです。ただ、今はシーズン中なのでテニスに打ち込んでもらいたいので、行政では水面下でしっかり準備しておきたいと思っています。ハンディキャップのある若者が、努力を实らせ輝けるのは素晴らしいことです。我々が自治体としてどこまで貢献できたか分かりませんが、こんなに良いことはないので、小田選手からいろいろな意見を取り入れて、まちづくりに広く活かしていきたいという思いです。

心配なのは、小田選手がますます多忙になって、一宮市に帰ってきてくれる時間が減るんじゃないかということです。そこがうれしさ半分寂しさ半分ですね。